

令和3年度東海農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定地区(者)の概要

部門別	県名	市町村名	地区名・個人名	取組の概要	
団体部門	愛知県	豊田市	一般社団法人 <small>オンイ</small> 押井宮農組合	<ul style="list-style-type: none"> ●自給の喜びを消費者と共に分ち合う長期契約栽培「自給家族」方式で農地を守り、集落を消滅の危機から救う活動に取り組む。 ●「地域まるっと中間管理方式」による集落営農組織への農地集積により、農地が荒れることがない仕組みを構築。農業労働力は農都交流が生み出したUIターンの半農半Xの若者たちが担い、関係人口で集落を維持。 	 <p>農家民宿の体験プログラムが「自給家族」の原点</p>
	愛知県	豊橋市	株式会社アグリトリオ	<ul style="list-style-type: none"> ●農家の人手不足解消のため個人と農家をマッチングする「農 How」と、福祉事務所と人手不足の農家をマッチングする「農 Care」のプラットフォームを運営。 ●そこで得た農家、障がい者等の課題に対応すべく、地元JAや地元農家の規格外を含む花を、障がい者がアレンジメントフラワーにして販売。サブスクリプション販売にも取り組み、地域活性化と農福連携産地PRを実践。 	 <p>アレンジメント作業風景</p>
個人部門	愛知県	新城市	コヤマ <small>シュンジ</small> 舜二	<ul style="list-style-type: none"> ●四谷千枚田を地域の宝と位置づけ、50歳を迎えた平成3年から棚田保全活動を開始。以降30年、多くの賛同者とともに地域(むら)づくりを実践。 ●棚田の理解を図るため、棚田写真展の開催、都美術館への出展等視覚を通じ知名度アップを目指した。また棚田の多様な機能を活かした生きもの再生、自然観察会、稲作体験、各種研修の実施、余剰米の継続提供など、率先して活動に取り組む。 	  <p>四谷千枚田をバックに 灯そう千枚田</p>